

1. 研究主題

自他を思いやり，主体的・協働的に活動する生徒の育成
 ～進んで考え，伝え合う道徳の授業を通して～

2. 主題設定の理由

(1) 「特別の教科道徳」の施行に向けて

今年度より施行となった「特別の教科道徳」では，ひとりひとりの生徒が自分自身の問題と捉え向き合う，「考え，議論する」授業が求められている。本研究は今年度で2年次となる。研究を始める以前の道徳の授業では，学級担任にゆだねられる部分が多く，全校的なものとはいえなかった。また授業の内容についても登場人物の心情を考えることで終わってしまう，教材の読み取りが中心であるものが多くみられた。そこで「特別の教科道徳」の施行に向けて，学校全体の取組として，「考え，議論する道徳」へと変えていく必要があった。

(2) 全員の共通課題として

本校では開校以来，「生き生きと学び，主体的に活動する生徒の育成」を研究主題として，各教科での研究を中心に進めてきた。しかし，教科指導に関する研究では，各教科の専門性もあり，共通な課題を見つけることや全員が同じ立場で研究を進めることが難しいといった問題があった。その点，道徳科では教科の専門性に左右されることもなく，全員が同じ立場であるため共通課題としてふさわしいと考えた。

(3) 学校教育目標と目指す生徒像から

教育目標では知徳体のうち，学習の目標として「進んで学ぶ生徒」，道徳的目標として「思いやりのある生徒」が掲げられている。また目指す生徒像としては，自らすすんで，考え・正しい判断をする生徒，「仲間・地域」と協力する生徒が掲げられている。これらのことから，自他を思いやる気持ちを育てること，主体的にそして周囲と協力しあいながら行動することが大切であると考えた。

(4) 自己肯定感の向上を図る

本校の課題のひとつとして生徒の自己肯定感が低いということがある。平成29年度の全国学力・学習状況調査では「自分にはよいところがありますか」という質問に対して，あてはまる，どちらかといえばあてはまると答えた生徒は66.7%と北海道平均の69.9%や全国平均の70.7%よりも低い数値となっていた。

道徳の授業を通して，自分の考えを述べたり，他の人の考えを聞いたり，お互いのことを考えるなかで自己肯定感を高めていきたいと考えた。

質問 自分には、よいところがあると思いますか

	66.7%	33.3%		
	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
本校	31.0	35.7	26.2	7.1
北海道	29.2	40.7	20.6	9.4
全国	28.2	42.5	20.5	8.6

平成29年度の全国学力・学習状況調査

3. 研究の仮説

道徳の授業において、教材や発問を工夫することで学習意欲が高まり、自ら進んで考えていくことができるであろう。またお互いの考えを交流する場面を設定することで、多面的・多角的に考え、自らの考えをより深めていくことができ、生徒の主体性や協働性を育むことにつながるであろう。

4. 研究の視点

【視点1 「教材の提示・発問の工夫」について】

- ・教材の内容の理解や生徒の興味関心をたかめるような提示方法
- ・自分を見つめなおしたり，自分事として考えられるような発問
- ・考えを深めるための教師からの発問や問い返し

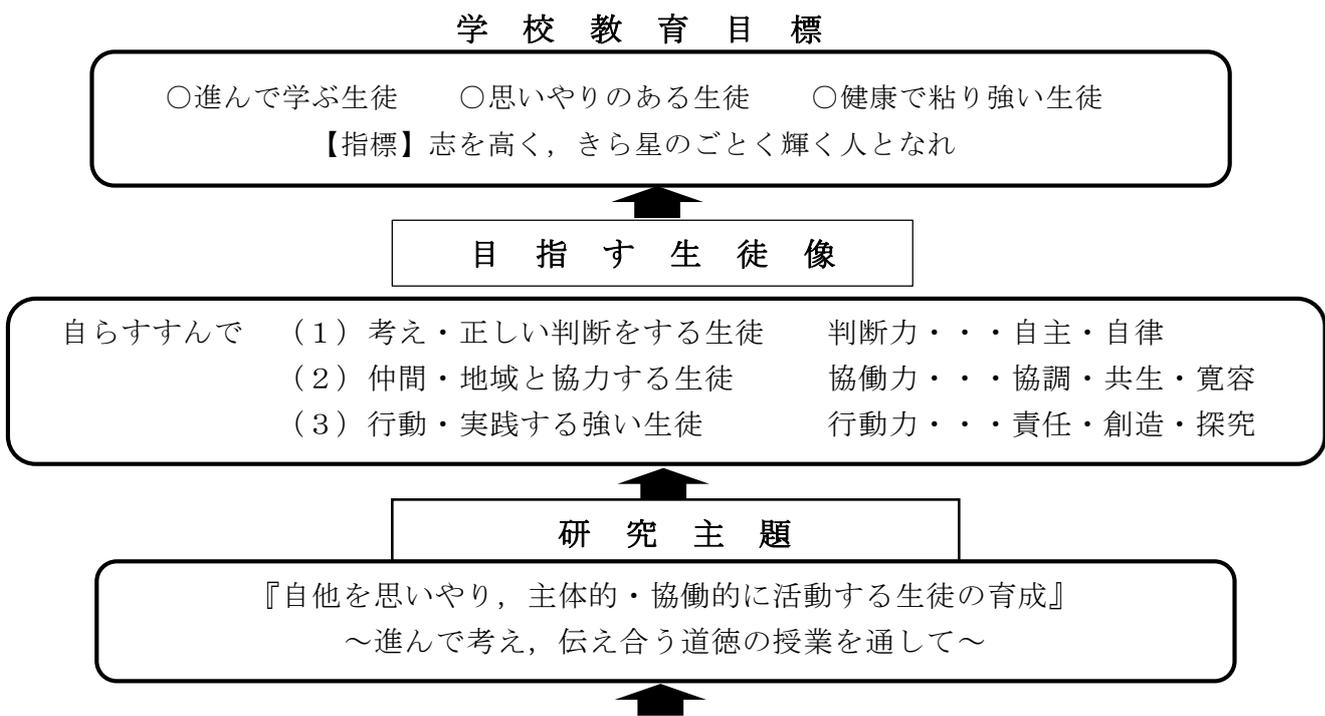


【視点2 「対話的な活動の充実」について】

- ・自分の考えを深め，多面的，多角的に考えることにつながるような効果的な話し合いの形態
- ・自分の考えを深め，多面的，多角的に考えることにつながるような効果的な発表の形態



5. 全体構想図



研究の仮説

道徳の授業において、教材や発問を工夫することで学習意欲が高まり、自ら進んで考えていくことができるであろう。またお互いの考えを交流する場を設定することで、多面的・多角的に考え、自らの考えをより深めていくことができ、生徒の主体性や協働性を育むことにつながるであろう。

研究の視点

【視点1「教材の提示・発問の工夫」について】

- ・自分を見つめなおしたり、自分事として考えられるような発問
- ・考えを深めるための教師からの問い返し
- ・ICTの活用等での教材提示

【視点2「対話的な活動の充実」について】

- ・自分の考えを深め、多面的、多角的に考えることにつながるような効果的な話し合いの形態
- ・自分の考えを深め、多面的、多角的に考えることにつながるような効果的な発表の形態

6. 具体的な取組

(1) 道徳の指導体制の見直し

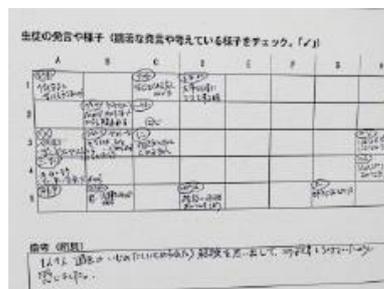
学校全体の取組とするために、道徳の授業についてこれまで行ってきた担任のみの指導を見直し、学年教員でローテーションを組み道徳の授業を行うこととした。そのため年度当初に指導時期、資料名、内容項目、担当者をまとめた年間計画を立て、それに沿って授業を進めてきた。

これにより普段の道徳の授業では、担任に限らず同じ学年に所属する教員が授業を行うようになり、更にお互いの授業の様子を知ることができるよう、空き時間があれば自由に参観できるようにして交流を図った。

またローテーションでの指導の際、教師間の情報共有のための資料として、道徳ファイルを活用した。ファイルには、授業で使用したワークシートや資料、参観した教師から見た生徒の様子などを記入したものとじ込み、教師間での情報共有や評価の資料として使用した。

年間指導計画

月	回数	資料名	内容項目	担当
	1	【さらなる高みを目指して】1 全てがオオカミ会った	A4	山本
	2	【あいさつを交わして】2 朝市の「おはようございます」	B7	本波
	3	【権利と義務を考えて】3 選手に選ばれて	C10	山本
	4	【自分との付き合い方】4 自分の性格が大嫌い！	A3	本波
	5	【いじめのない世界へ】5 いじめに当たるのはどれだろう	B9	北山
	6	【いじめのない世界へ(2)】6 傍観者でいいのか	A1	山本
	7	【いじめのない世界へ(2)】7 ふたつの心	A1B8	山本
	8	【ふるさとのために】7 ぼくのふるさと	C16	本波
	9	【素晴らしい生活習慣】生活マップ作り	A2	美津野
	10	【安全な生活のために】9 山に来る資格がない	A2	山本
	11	【情報モラルと友情】11 短文投稿サイトに友達の悪口	B8	本波
	12	【法の遵守】防犯教室	C10	指導部



道徳ファイル
生徒の様子



授業の様子

(2) 部会交流・校内研究会の活発化

道徳の研修を進めるにあたり、今年度は教員数や学級数、生徒の実態等を考え、1・3学年部会、2学年部会、特別支援部会の3つの部会に分け研修を進めてきた。そして部会交流授業として、部会内で全員が授業を公開し授業交流を行った。参観後は研究の視点に関わって気づいた点などを記入し部会長が取りまとめその後の授業改善にいかすようにしてきた。

また、道徳に関する校内研究会も、昨年度は平成30年10月31日に3学級の公開授業、今年度は令和元年7月11日に1学級の公開授業、10月21日に3学級の公開授業を行ってきた。



部会交流での授業公開



校内研究会

7. 研究の内容

【視点1「教材の提示・発問の工夫」について】

(1) ICTの活用

教材を読むだけでは内容理解が難しい生徒にとって、教材の内容の概要や登場人物の関係を提示することが内容理解へとつながっていく。その際、ICTの活用が効果的であり、またICTを活用し、視覚的にも訴えることで、生徒の興味関心を高めることにもつながる。



動画を使っでの教材提示



パワーポイントを使っでの場面確認

(2) 生徒の動きがある場面をつくりだす

教材の提示のひとつとして、朗読劇を実演したり、発問の工夫としてある場面を実演したりするといった、生徒の動きがある場面を取り入れることは、生徒の授業への主体性も増し、演じる方だけではなく、聞く方も関心を持ち授業に取り組むことができる。



生徒による朗読劇の実演



ある場面を想定した生徒の実演

(3) 具体的に考えさせる

発問の工夫として登場人物の心情を考えるだけでなく、より具体的に自分達ならどんな言葉をかけるのか、また友人への手紙を実際に書いてみるなど具体的に行ってみたり、具体的な行動について考えさせたりすることで、生徒は自分事として捉えることができる。

どんな言葉を自分なら言うのかを考え
実際に言ってみる



友達への手紙を実際に書いてみる

【視点2「対話的な活動の充実」について】

(1) 課題や学級の実情を考慮した話し合いの形態

話し合いの形態について、ペア、4人グループ、班など、課題や学級の実情に合わせ形態を考えることが、話し合いの活発化につながる。



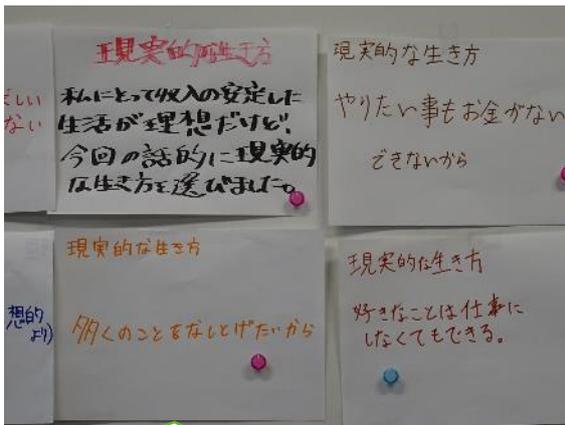
課題に合わせた3人グループ



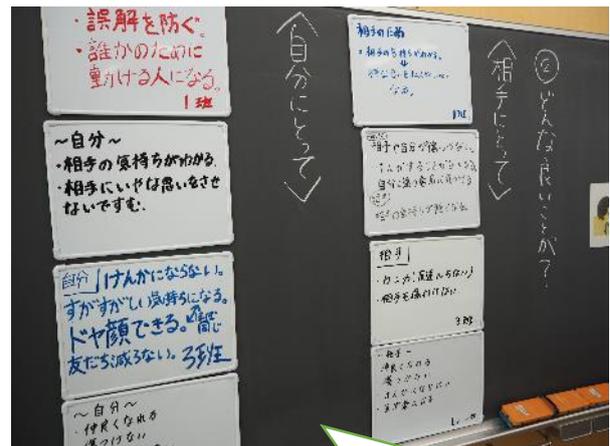
学級の班を使った話し合い

(2) カードやホワイトボードを利用した発表の形態

発表方法として、個人やグループでの考えをカードやホワイトボードに書きだして、掲示することで、言葉だけの発表ではなく、他者の考えをじっくりとみることができ、自分を振り返る際に役立つ。



全員が自分の考えを記入し掲示



班でまとめたものを掲示

8. 成果と課題 (○成果 ●課題)

○道徳科に対する教員側の意識の高まり

○道徳アンケートの結果より

道徳が好きだという生徒が昨年度の68%から81%に13%アップした。

大きな理由のひとつとして、ローテーションでの指導がある。(98%がよいと感じている)

○ICT等を活用した教材提示の工夫

○話し合いや発表方法の工夫

●より自分事として捉えられるような発問や問い返し

●考えが深められるような話し合いの形態や発表方法

●タイムマネジメント (展開後半やまとめの時間の確保)